

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

株式会社 日本クライメイトシステムズ

(2) 事業所の所在地

広島県東広島市吉川工業団地3番11号

(3) 業種

自動車部分品・附属品製造業 3113

(4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、令和2年度を基準年度とし、令和3年度から令和7年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

株式会社 日本クライメイトシステムズは、『快適な車内空間での豊かなカーライフを演出する為、新しい価値の創造を通じて人と社会に貢献する。』という企業理念の下に、カーエアコンの開発及び製造に係わるすべての企業活動と自然環境との調和を目指し、快適環境の創造と地球環境の保護に貢献する。

1. 企業活動、製品及びサービスに係わる環境側面を認識し、ISO14001に準拠した環境マネジメントシステムにより継続的な環境保護活動を行う。
2. 環境に関する法規制、条例及び受入れを決めた要求事項を順守し、環境汚染の予防、持続可能な資源の利用、気候変動の緩和と適応、自然環境の保護と回復に努める。
3. 環境方針に沿って、環境目標を設定し、省エネルギー、省資源、リサイクル、排出物/廃棄物の削減、環境負荷化学物質の削減に取り組むと共に、目標は定期的に見直しを行う。
4. 地域社会との対話を大切にし、地域における環境保護活動に積極的に協力する。
5. この環境方針は全従業員及び関係者に周知徹底し一人ひとりの環境保護意識を高めると共に、求めがあれば一般にも公開する。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	令和2年度	令和2年度
二酸化炭素	5,863	5,863

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 年度	平成 年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 年度	平成 年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF6 NF3)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)		削減目標		目標年度 (平成 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)	
エネルギー起源CO2					0
非エネルギー起源CO2					0
メタン					0
一酸化二窒素					0
その他 温室効果ガス					0
温室効果ガス 実排出量総計					0
温室効果ガス みなし排出量		-			0
目標設定の考え方					

※ 削減率 (b) = (c) / (a) × 100 削減量 (c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

熱交換器生産台数 (千台)

単位：排出量 (t-CO₂)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (令和2年度)		原単位 削減目標	目標年度 (令和7年度)			
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO2	5,863	2,024	2.90	5.2	7,526	2,737	2.75
非エネルギー起源CO2							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-		0.0	-	-	
目標設定の考え方							

※ 削減率 (d) = { (c) - (g) } / (c) × 100 原単位 (c) = (a) / (b) 原単位見込 (g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	電気使用量の削減	電気の使用量（原単位）を削減 令和2年度5.14kWh/台（基準） 令和7年度4.87kWh/台△5.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・冷暖房温度の適正管理 ・省エネ型設備の更新、導入 ・電気炉の断熱保温改修 ・生産の効率化とタクトアップによる省エネ ・休憩時間の消灯の徹底 ・外部省エネ診断の活用 ・社内省エネ体制強化と推進
2	LPG使用量の削減	LPGの使用量（原単位）を削減 令和2年度62.3N% / 台（基準） 令和7年度60.0N% / 台△3.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・乾燥炉の断熱保温改修 ・工場暖房供給管理の強化 ・ボイラ老朽化更新 ・ボイラ運転（ローテーション）の最適化 ・蒸気ドレン回収再利用
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

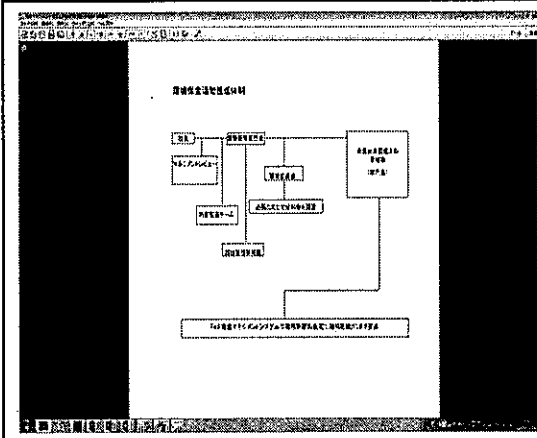
○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	廃棄物排出量の削減	廃棄物の再資源化99%以上達成	<ul style="list-style-type: none"> ・両面コピー、裏面利用等 ・分別収集及び資源化の徹底
2	リサイクル率の向上	廃棄物の再資源化99%以上達成	<ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮型商品購入、グリーン購入の推進 ・製品の廃棄抑制
3	その他	活動計画に基づき実施した	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のクリーンアップ活動の実施 ・全従業員への環境教育、啓発活動 ・チームマイナス6%への参加 ・地域貢献・エコボランティア活動推進

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

環境管理事務局を中心として、毎年温室効果ガス削減計画の取組状況の把握・点検及び問題点の検討を行い、環境委員会において定期的に評価・見直し等を行い、継続的な向上を図る。

(3) 計画書等の公表

事業所への備付による閲覧